

方針と重点	基本戦略	教育目標	資質・能力	育っていた	との関わり	基本施策	本年度新たな学校の重点		具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針と重点 地域・時代的全体的変化に対応した郷土教育の推進 主体的な学びを推進する力 地域・文化・伝統について学びを育む教育の推進	①②③④ 主たる地域の体変化に対応した郷土教育の推進	進んでやりぬく宮小の子 さやさしく かしこく たくましく	育っていた 資質・能力	育っていた との関わり	基本施策	本年度新たな学校の重点	② ・良さの実感とパートナーシップで自己肯定感を高める 児童と担任の夢や目標の共有 「自分には良いところがある」A評価70%	A	・「自分には良いところがある」と言い切った児童は67%で昨年度よりは上昇したが数値目標には届かなかった。「仲間の輝きをひとつは見つけている」という項目は全児童ができた。 ・新規不登校児童が出なかったことは、全職員に必要な児童に必要なタイミングで組織的に支援できていた成果である。 ・自分から挨拶できたのは75%だったが、昨年度比較で10%UPLした。 ・「服をたたむ」指導は97%で昨年度より大幅に上昇した。 ・「学校内に相談できる大人がいる」は達成していると思われる項目も児童や職員の差異はある。 ・今年度は職員も児童も評価項目の「Aである」と言い切ることができるよう努力した。この点においても前年度の職員評価は大幅に向上した。 ・不登校児童が0となり、多面的な指導支援の成果と捉える。 ・マイサポーター制度で全員が大人を指名できたが、実際には相談のハードルは高い。		
							② ・人や物を大切にできる 仲間の輝きをひとつは見つけることができた A評価100% 自分から挨拶ができる A評価80%	A			
							② ・危機管理の組織的な対応 いじめ対応や食物アレルギー対応などをチームで行う。	A			
							④ ・特別支援教育の充実と要支援児童への支援の充実 交流授業や通級指導教室などを効果的に活用する。 必要な児童に必要なタイミングで組織的に支援する。	A			
							②④ ・多様性を認め個に応じた支援の充実 完全不登校0 新規不登校を出さない	A			
							② ・相談活動の充実 学校内に相談できる大人がいる A評価100%	B			
							① ・学習の質を高める 全学年での教科担任制の拡大 根拠を基に言い切れる児童 児童職員共にA評価80% 終末の「きらりタイム」を見通した授業改善 授業が楽しい A評価80% 授業が分かる A評価80%	A			
							① 基礎・基本的な学力の定着 CRTテスト学力低層(平均点の1/2)を5%以下	C			
							① 学習の個別化と指導の個性化を図る タブレットを活用し、個に応じた指導・支援を行うA評価80%	A			
							① 真に力をつける校内研究の実施 主体的な学び(選択場面)対話的な学び(机から離れる)A評価80%	A			
							① ③ キャリア教育の積極的な協働 地域の方の講話、地域での体験活動を充実させる。 地域の方の力を学校で活かす(クラブ活動)	A			
							③④ 家庭との連携 眠育の推進 早寝早起き朝ごはん	A			
							①③ 地域と連携した総合的な学習 一之宮学の推進(年間計画に基づいた活動)計画80%以上	A			
							③④ 非常変災時に自分の命を守る力を高めたい 防災教育を地域と小中連携で実施する	A			

学校運営協議会における主な評価内容	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で地域を学習し、文化・伝統に関して地域住民との連携ができています。自分の考えをもち進んで対話する児童の育成につながっている。 ・一之宮だけでなく視野を広げることも大切にしたい。自分の考えをもつためには人の意見を聞ける力をつける必要がある。 ・対話をするためには知識が必要。 ・お互いを尊重することができなければ対話はできない。聞きあう力をつけたい。 ・子どもを中心にした地域づくり。学校教育と社会教育そして家庭教育で総合的に人間力を高めたい。
-------------------	--